

## 屋外イベントにおけるクマ出没対応について

屋外イベントにおけるクマ出没対応について、留意事項を下記のとおり定めたものであり、クマ出没の際には、観客等にパニックを起こさせることなく、安全な場所に避難させ、人身被害が発生しないことを目指すものである。

### 1 事前準備

#### (1) 安全確認

ア イベント会場の下見等を通じて事前にリスクを予測・分析し、開催時間帯、場所を検討する。

(山際での早朝、夜間の開催を避ける、見通しの悪い場所を避ける 等)

イ 市公式ホームページ「[クマ出没等情報マップ](#)」などから、会場周辺における過去のクマの出没情報を収集しつつ、リスクが高いと判断した場合の中止、延期の判断基準を検討する。

ウ 監視体制において、ドローンの活用を検討する。

#### (2) 環境整備

ア 会場の周辺における、藪の刈り払いなどを行い、クマが隠れられる場所をなくす。

イ クマの誘引物となり得る食品廃棄物の管理方法を関係者で共有する。(フタ付き容器に入れてに  
おい対策を行う。夜間に生ゴミを屋外に置かない。ゴミ箱の位置を共有し、点検する。等)

#### (3) 連絡体制等

ア 緊急時の役割分担や連絡先リストを整備し、関係者で共有する。避難計画を作成する場合は、クマが出没した場合に逃げ込める建物等を決めておき、出没した際の誘導方法を確認しておく。

なお、逃げ込む建物等の所有者には、事前に了解を得ておくこと。

イ 関係機関や報道機関等外部に情報を提供する場合の窓口を一本化し、混乱を避ける。

### 2 イベント当日

#### (1) 情報収集・伝達

ア イベント運営本部において、無線機又はスマートフォンなどにより、スタッフと連絡が取れる体制を整備する。

イ 市公式LINE等の出没情報を発信しているツールで最新の出没情報を確認できるようにする。

#### (2) 安全確保

ア クマの目撃情報があった場合は、関係者と情報共有し、事前に検討したイベントの中止判断基準をもとに適切な判断をする。

イ クマの出没を確認した場合、落ち着いて次の行動に移る。

(ア) 速やかに警察または市に連絡するとともに事前に整備した連絡リストに基づき情報共有する。

(イ) 観客等がパニックにならないよう、冷静に行動するよう呼び掛ける。

(ウ) 事前に決めていた避難計画に基づき避難場所に参加者を誘導する。

### (3) 環境整備

ア ゴミ箱等を設置している場合は、事前に共有した方法で適切に管理する。特に、クマの誘引物となり得る食品廃棄物の管理には注意が必要。

#### 【参考資料】

#### 3 クマの生態

- ・成獣の頭胴長（鼻の先から尾の付け根までの体に沿わせた長さ）は110～140センチ、体重は40～120キロ。
- ・昼行性の動物であり、朝（日の出頃）と夕方（日没頃）に動きが活発になる。学習能力が高く、周囲の状況に併せて行動を変えることがあり、エサを求めて夜に活動することもある。
- ・臆病な性格で、不意の遭遇により防衛的に人を攻撃することがあるが、積極的に人を襲う動物ではない。
- ・100メートルを約10秒で走ることができる。
- ・嗅覚は、犬よりも優れており、数キロ先のおいもかぎつけることができると言われている。また、聴覚が優れており、イベント会場等の人が多く集まる場所に近づくことは少ないとされている。

担当：環境部環境企画課（直通：019-613-8419）  
課長 新井田 昌幸（内線 8410）